「稲発酵粗飼料の新たな展開に向けて」をテーマに研究会を開催

畜産技術部(畜試)
平成21年12月9日

12月9日に、農林総合技術センター畜産技術部において、「稲発酵粗飼料の新たな展開に向けて」をテーマとして、山口県草地研究会の第2回研究会が開催され、飼料用米と飼料用稲についての講演と話題提供が行われました。

飼料用米や飼料用稲は、水田を有効に利用できる転作作物として注目され、「新規需要米」と呼ばれており、食料自給率向上の一翼を担っています。

山口県農林総合技術センター（農業技術部、畜産技術部）からは、本年度近畿中国四国農業研究センターが育成した、稲発酵粗飼料(WCS)用有望系統「中国飼198号」の現地試作の結果を紹介しました。

また、10月に収穫し、サイレージ調製を行った中国飼198号のWCSを開封し、畜産技術部内の繁殖牛に給与して、発酵品質や牛の嗜好性を確認しました。

なお、中国飼198号は、これまで稲発酵粗飼料用稲の課題となっていた、耐倒伏性、発酵品質及び消化性（子実排泄）が改善された茎葉高糖分型飼料イネの系統で、2010年度に品種登録される予定です。

このたびの農業技術部と畜産技術部での現地試作で、山口県においても理想的な有望な稲発酵粗飼料用稲となりうることが確認できましたので、品種登録された暁には、作付け拡大を推進し、飼料自給率の向上を通じて食料自給率の向上に寄与できるよう、本格的な研究への取り組みを続けていきます。

講演会

ＷＣＳ開封